

詐欺情報、一斉に金融機関へ

警視庁初 蒲田署25日から運用

蒲田署は19日、管内に特殊詐欺のアポ電が入った際、その情報を地域の金融機関に一斉に伝える連絡システム「蒲田版『シン・オートコール』」を試験運用する様子を公開した。シン



シン・オートコールで届いた特殊詐欺のアポ電情報を客に伝える城南信用金庫の職員（中央）
＝19日午後、大田区東六郷（橘川玲奈撮影）

・オートコールはN.T.T東日本が開発した技術で、AIによる音声読み上げや録音した音声で固定電話などへ一斉情報伝達ができるというもの。警視庁としては初のシン・オートコールの

活用で、25日から正式に運用が始まる。
蒲田版シン・オートコールは、署がアポ電情報を入力すると、管内の金融機関に一斉に電話で連絡。電話を取ると、自動音声で「現在、還付金詐欺の電話が多数、入電しています。ATMに対する警戒を強化してください」と流れる。聞いた職員が「はい」と答えることで、連絡の受信を署が確認できる仕組みになっている。

蒲田署によると、管内の金融機関52店舗が協力。これまででは署員が電話で1店舗ずつ連絡していたが、このシステムにより、52店舗に約30秒で伝えられるようになるため、素早く警戒に当たることができるという。
この日の試験運用では、蒲田署から城南信用金庫六郷支店（大田区東六郷）の

支店長の電話に連絡が付き、職員が窓口の客に「この地域に詐欺の電話がかかっているようですよ」と警戒を呼びかけた。
城南信用金庫の川本恭治理事長は「地域の方を特殊詐欺の被害から守るため、警察と連携していきたい」と話した。

『産経新聞』2023年4月20日付21面<地域面>